

第 66 回日本脳神経外科学会総会 (平成 19.10.3~5)

慢性期重症頭部外傷患者における脳血流 SPECT  
—ECD-SPECT による 33 例の検討—

CBF of the patients in the chronic stage after severe head injury

自動車事故対策機構 千葉療護センター 脳神経外科  
小瀧 勝、内野 福生、岡 信男

【目的】慢性期における重症頭部外傷患者の脳病態については不明な点が多いが、その病態解明のため脳血流を測定して、臨床症状と比較検討した。【対象・方法】交通事故により頭部外傷を受け、重度の後遺症の治療ために入院した 33 例を対象とした。SPECT は ECD により脳血流パターンについて検討した。臨床症状は当センターの「レベル判定表」により判定した。受傷時の年齢、入院までの期間、レベル判定表によるスコア (最低 0 点、最高が 100 点) について検討した。【結果】受傷時の年齢は平均 32.3 歳、入院までの期間は平均 2.4 年であった。脳血流 SPECT は 1 型 (両側前頭葉の低下) 2 例、2 型 (一側半球の低下) 10 例、3 型 (両側の低下) 11 例、4 型 (局所の低下) 10 例に分類された。1 型は diffuse injury 1 例、頭蓋内血腫 1 例で、2 型は diffuse injury 2 例、頭蓋内血腫 8 例で、血腫側に血流の低下が見られた。3 型は diffuse injury 8 例、頭蓋内血腫 3 例、4 型は diffuse injury 8 例、頭蓋内血腫 2 例であった。一方、臨床症状の評価では、全体のスコアは 11-95 点 (平均 37 点) であった。1 型は 18-23 点 (平均 20 点)、2 型は 11-95 点 (平均 21 点)、3 型は 12-41 点 (平均 23 点)、4 型は 40-87 点 (平均 60 点) であった。【まとめ】1) 慢性期の重症頭部外傷患者において、脳血流 SPECT により 23 例 (70%) に広範な血流の低下を認めた。2) 脳血流の低下が局所の群 (4 型) では、他の群に比べスコアが高値であった。